



ふくおか [Good] 農業人100

主な農産物 / リーフレタス (12ha)、オクラ、米、麦、大豆

高田 英明さん (26歳)

(営農地 / 久留米市太郎原町)

30歳でキャプテンになることを目指す

《就農のきっかけ》

父の勧めが農業の道へ後押し

地元の工業高校を卒業後、佐賀県内にある建設会社に就職していました。会社へ早朝から出勤し、帰宅するのは夜10~11時と超多忙な勤務体制であったそうです。しかし、きつかったけど、仕事に責任を持たされていてやりがいを感じていたため、会社を辞めようとは考えてなかったそうです。

1年を過ぎたころ父から、「一緒に農業をしないか」と勧められました。我が家は、リーフレタス専門に農業を展開しており、機械導入による面積拡大を展開しているときで、家族の協力が必要な時期でした。父から、農業は「自分で頑張った分だけ見返りが来る」と聞き魅力を感じ、就職1年半後に退職し就農されました。

新しいことに不安はあったけど、父の後押しもあり、新たに挑戦することとしました。

《これまでの過程》

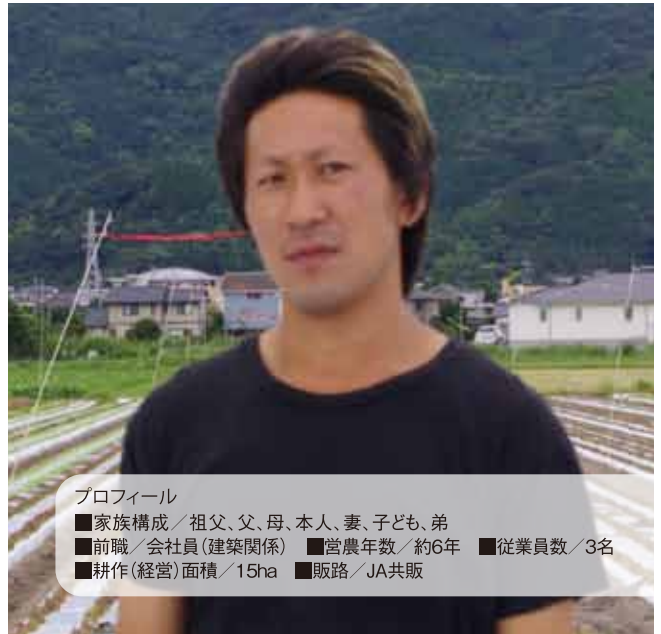
両親も背中を見て技術習得

我が家は農家ですが農業を学校で学んだことはなく最初は不安でした。しかし、両親に相談しながら、父や母の作業を見よう見真似で知識と経験をつんできました。農業は、生き物なので常に気を配っていないと失敗もあります。ちょっとした段取りの悪さで、育苗時に苗を枯らしたり、春先にアブラムシの防除が遅れ大発生したことを就農4年目に体験し、それ以降は、観察を適時行い小まめな管理に気をつけ失敗をしないように気をつけているそうです。

リーフレタスの面積拡大は、近隣の兼業農家や高齢で農業の跡継ぎのいない農家から、農地の借入を行い規模拡大を行っています。

農業者の友達は4Hクラブ※が中心で、現在、久留米市4Hクラブ会長で農業者のリーダーとして自己研鑽の研修会や農業後継者の相談役として活躍されています。年齢の差が少ないので、気安く悩みや情報交換ができるように心がけているとのこと。JA青年部では、経験豊富な先輩たちに栽培技術の改善点や疑問点、悩み等を相談に乗ってもらっているそうです。

会社勤めをしたことは、決してマイナスではなかったと高田さんは言



プロフィール

- 家族構成 / 祖父、父、母、本人、妻、子ども、弟
- 前職 / 会社員(建築関係) ■営農年数 / 約6年 ■従業員数 / 3名
- 耕作(経営)面積 / 15ha ■販路 / JA共販

われます。計画に沿って工事をやり納期までに完了することは、時間にルーズな農業では改善されるべき点だといわれます。農業でも、常に、目標を持ち計画を立て実行する。それが農業でも必要だと高田さんは指摘されます。

《これからの展望》

雇用導入により栽培面積の拡大

リーフレタス面積を現在の面積の約2倍の20haに拡大していきたい。そのためには、現在の労働力では不足するので、雇用を積極的に導入していきたいとのこと。雇用の安定を図るには、リーフレタスは秋~初夏が栽培期間となるので、夏に安定した品目の導入を図り、周年雇用ができる経営を目指します。また、久留米特産のリーフレタスを若い部会員で盛り上げる夢を持っておられます。「現在、父が我家の司令塔ですが、30歳になったら自分がキャプテンになり計画を立て、実行して、父の代役ができるようになりたい。」と語ってくれました。

※4Hクラブ...農村の青少年が地域社会において交流と親睦をはかりながら、農業の生産技術や経営を学ぶとともにひろく生活上の課題を解決する力を養うことを目的としてつくられた学習グループである。4Hとは、head(頭)、hand(手)、heart(心)、health(健康)の頭文字をとったもので、活動の目標を象徴している。



Good 成功のためのポイント

会社でも農業でも計画を遂行するため段取りが必要です。我が家は、農業経験の長い父が圃場計画、播種日、移植日等の計画を立てています。私は父の計画に基づき作業等を補佐しますが、いつか、自分が仕事を任せてもらえるように頑張っていきます。農業は体力が必要です。このため、効率よく働くように心がけています。夏暑い時期は、早朝から午前中に働き、日中は休憩、夕方作業を行っています。しかし、基本的には、午後5時には作業を終えるようにしている。夜遅くまで作業をすると翌日に影響するためです。経営管理は、明確にするよう気をつけています。経費がいくらかかっているか帳簿をして、家族で検討するように心がけています。